

緊急人道支援学会企画セッション2A

長期化する危機状況下における教育支援

Education support in protracted crisis

- 座長：三宅隆史 立教大学文学部教授

1630-1640 趣旨説明、参加者紹介

1640-1710 発表① 小松太郎 総合人間科学部教授

「複雑化する危機下の難民教育支援—人間の安全保障フレームワークを用いた分析」

本研究では難民への教育支援のあり方を検討するため、ヨルダンでINGOが実施する補習事業のシリア難民への影響を人間の安全保障の観点から分析した。現地調査の結果、ヨルダン人生徒・教師とともに安全な環境で学び、学力が向上することは、シリア人生徒の就学継続とエンパワメントを促し、長期的に難民生活の安全保障を強化することが明らかになった。

1710-1740 発表② 山本英里 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会事務局長兼アフガニスタン事務所所長

「危機下での図書館活動を通じた教育支援（アフガニスタン）」

複雑化かつ長期化する危機下においては、状況が落ち着くまで待っている、子どもたちに様々な「空白」が生まれてしまう。この「空白」が子どものその後の人生にとって、どれだけ影響があるか計り知れない。本発表では、図書館活動がこの空白を埋めることができる可能性を有していることを論じる。

1740-1800 自由討論、まとめ

- 要旨

水・衛生、医療・保健、居住、食糧と並んで教育は緊急人道支援の柱とされており、紛争の長期化と共に教育支援の重要性はますます高まっている。このセッションの目的は、①長期化する危機状況における教育支援の経験・知見を共有し、②この分野の支援に関する課題ならびに調査研究の課題を明らかにする、ことである。まずヨルダンにおけるシリア難民ならびにタリバン政権下のアフガニスタンの女性と子どもを対象とする2つの支援事例についての調査・考察の発表をいただく。その後、長期化する危機状況下における教育支援についての参加者の経験・知見を共有し、意見交換を行う。